令和八年秋号（２０２６年）

あたらしい道



【いいこと云って】

第５４８号

いいこと云ったら
いい風に〳〵　段々〳〵
自分のぐるりが　こうなるんですよ
それが倖せです

親同士がね
何となくいいお話をしてね
喜んでくれる気を溜めていれば
子供は良くなること
決まってますんです

松木章垣女史
語録

あたらしい道

令和八年　秋　548号

目次

テーマ「いいこと云って」

ことのは　親同士で「いいこと」云う……1
「ご垂示」……4

日本の国柄　明治天皇――編集部……8

道友録　「喜んで何なりとさしてもらいます」――大阪　今村博……18

おもい　閑院宮様とワンカップ――東京　佐藤吉司……29
少年日本史　上杉謙信――「少年日本史」制作委員会……32
日めくりに寄せて　鼻血が……止まらず――旭川　河合良明……37

（表紙題字　松木草垣女史御親筆　とびら書　松下賀奈子さん）

新企画のお知らせ……

《日めくりに寄せて》――『やまとの言葉』か『松籟』から一つを選んで、ご自分の思いや通り越しをお書き下さい。（四百字原稿用紙5枚程度）〈一般向けです〉。郵送にてあなたに執筆依頼状が届きます。そのときは、ご協力のほど、よろしくお願い致します。



赤とんぼ

ことのは　「いいこと云って」

親同士で「いいこと」云う

あなたね　子供にはやっぱりね
親同士でいいことを語らう　話し合う
それが幸せだと　そう思うでしょうね

そうでしょう　親同士が
たいした（いい）話もしていなかったらね
今の子供は　どんどん悪の方に
引きずり込まれますんですよ

親同士がね
何となく〳〵　いいお話をしてね
喜んで〳〵　気を沸かしていれば
子供は良くなること
決まってますんです

ここが問題でございます
これ　あなたさん　お解りの筈でございます
こういう世の中ではね
子供のことで　先が心配だということ
ときどき　お思いになる筈でございます
一所懸命　親があくせく働いて
大きくしているつもりでも　ですね
子供は外でもって　どんなことをね……

色んな嫌なことばっかし
教わってくるんですからね
見てはならないものを　見てきますからね……
せめて家で　親同士が
いい話をしていればね
子供は自然に
ハッと気が変わる筈でございます

こういうことも　あなたさんね
ちょっと思って下さい

（「松の間」でのお言葉より）

「ご垂示」

いいこと云ったらグルリがいい風に

いいこと云ったら
いい風に〳〵　段々〳〵
自分のぐるりが　こうなるんですよ
それが倖せです

いいこと云いや

何時も〳〵　いいこと云いや
こう云っています
いいことを云うと　自分の肚が
気が済むんです

（昭和五十二年十二月二十三日抜粋）

嫌なことを云うと
肚の底が　むず〳〵する
だから　どうや
いいことを云おう

（昭和四十九年五月十七日抜粋）

いいこと云って喜びに喜ぶ

いいこと云うんです
それが　この道
いいこと云っていたら
自分というものが
益々　嬉しいんです
喜びに喜ぶ　これが理です

（昭和四十八年十一月十日抜粋）

時代に応じていいことを云おう

天上からの　有難い理
それを　受取っている
そういう自分達
時代に応じて　いいことを云おう
これが　肝心

いいこと云っていいことをする

さあ　それでは　この道のお方
世の中を見て　苦の苦です
でも　世間は　平気の平気

（昭和四十八年十一月十日抜粋）

さあ　そこで
この道のお方が
どうや〳〵　いいこと云って
いいことをするんです
それが本当

それが〳〵　世間のお方に　響くだろう
そうだ〳〵　それでいいんです

（昭和五十二年三月五日抜粋）

日本の国柄

明治天皇

編集部

一．ご生涯

明治天皇は、一八五二年、京都でお生まれになりました。幼少の頃のお名前は「祐宮（さちのみや）」、十五歳のときに第一二二代天皇に即位されました。

この頃、日本の国は大きく変わろうとしていました。それまで江戸幕府が武家中心の政治を行っていましたが、一八六八年の「明治維新」で大政奉還となり、政治の中心が天皇のもとに戻りました。

この頃から、日本は急速に近代国家へと生まれ変わります。西洋の技術や制度を取り入れ、鉄道や郵便制度、学校制度などが整えられ、一八八九年には「大日本帝国憲法」が公布され、日本は憲法を持つ近代国家となりました。

明治天皇は政治等の細かいことではなく、国の中心として人々の心をまとめる役割を果たされました。また、歌を詠むことがお好きで、生涯で約十万首もの和歌を残されたといわれています。

特に有名な一首は、日露戦争開戦時の明治三十七（一九〇四）年に詠まれたとされる、国を思われる御製です。

四方（よも）の海　みなはらからと　思ふ世に
　など波風の　たちさわぐらむ

（四方の海にある国々はみな兄弟だと思っているこの世の中であるのに、どうして波風が立ち騒ぐのだろうか）

開戦を避けることを求めています。日露戦争の講和条約斡旋を頼まれたアメリカのセオドア・ルーズベルト大統領は、この御製を知り、世界平和を願う精神に感激したと伝わっています。

昭和天皇もまた、大東亜戦争開始前にこの御製を引用されて、開戦反対の意をお示しになられたと言われています。（rekishi-ch.jp）

近代教育制度の整備が進む中、明治天皇は、伝統的な道徳教育が損なわれていき、西洋化していく風潮に危機感を抱かれ、一八九〇年、教育勅語（教育ニ関スル勅語）を、教育の基本方針として発布されました。

また、明治天皇は庶民の暮らしをお知りになるため、全国を「巡幸（じゅんこう）」されました。当時、天皇陛下が全国を回られることはとても珍しく、人々は大きな感激をもって迎えたと伝えられています。

一九一二年、明治天皇は五十九歳で崩御されましたが、日本の伝統と精神を大事にされつつ、その時代に行われたご改革により、日本は近代国家として大きく成長しました。明治天皇は、まさに「明治の御代」を象徴される歴史上の重要なお方でいらっしゃるのです。

二．明治天皇と神道（祭祀王）の視点

――祈りによって国を支えるという日本の国体――

日本の天皇というご存在を理解するためには、単なる政治制度としてではなく、神道の祭祀王という視点から見ることが不可欠です。世界の多くの王や皇帝は、軍事力や政治力を背景に国家を統治する「支配者」でした。

しかし、日本の天皇は古来より、神と人との間を取り持つ祭祀（さいし）の中心でした。

このことは、世界の文明史の中でも極めて特徴的です。天皇陛下は、国家の統治者である以前に、天と地を結ぶ「祈りの中心」として存在して来られました。新嘗祭（にいなめさい）や大嘗祭（だいじょうさい）などの皇室祭祀は、単なる宗教儀式ではありません。

それは、日本の国が天と結ばれていたことを象徴する行為であり、日本の国体の核心であります。この視点から見ると、明治天皇のご存在は非常に重要な意味を持ちます。

明治維新は、日本が西洋文明と真正面から向き合うことになった歴史的転換でした。欧米列強の圧力の中で、日本は近代国家へと急速に変化していきました。

しかし、その中で、日本が他の国と決定的に異なっていたのは、天皇という祭祀の中心が存続したことです。

明治天皇が残された約十万首の御製には、国民の幸福や国家の安寧への祈りが繰り返し詠われています。そこには、国家を支配する王ではなく、国民とともに祈る存在としてのお姿があります。

明治天皇は近代国家の君主として政治の中心に立ちながらも、同時に神道祭祀を守り続

けられたのです。

松木草垣女史は、世の中を変える力は人間の政治や思想ではなく、天の能きによるものと説かれました。この考え方は、日本古来の神道的世界観とも深く通じています。

神道においても、国家や社会は人間が作るものではなく、天の理の中で成り立つものと考えられています。

日本の歴史を振り返ると、政治の表舞台とは別に、祈りによって国を支える流れが存在してきました。

近代日本は、政治や経済の発展によって世界的な国となりました。しかし、その根底には、祈りによって国を支えるという日本古来からの精神があり、これが日本の国柄であります。

その意味で、明治天皇の祭祀王としての役割は、わが国の文明と国柄の本質を形作るものと言えます。

三．吉田松陰・明治維新と松木草垣女史の思想

――国家改革から人間改革へ――

日本の近代を語るとき、吉田松陰（よしだしょういん）という人物の存在を避けて通ることはできません。松陰は幕末の思想家であり、明治維新を精神的に支えた人物の一人です。

彼の思想の中心には、志（こころざし）という言葉がありました。

吉田松陰は、個人が国家のために志を立て、行動することを説きました。その思想は、多くの若者たちに影響を与え、高杉晋作（たかすぎしんさく）、伊藤博文（いとうひろぶみ）、山県有朋（やまがたありとも）などの維新志士を生み出しています。

明治維新は、このような志士たちの行動によって実現しました。つまり、松陰思想の中心は、国家を変える行動思想だったとも言えます。

しかし、明治維新によって国家の形は変わったものの、人間の問題が解決されたわけではありませんでした。

近代化の中で、日本社会は急速に変化し、戦争や社会の混乱を経験することになりました。このような歴史の流れの中に、松木草垣女史が現れました。

草垣女史は、世の中を変えるためには、まず、人間そのものが変わらなければならない、と説いています。

吉田松陰は国家改革を目指しましたが、草垣女史は人間改革を説かれたと言えるでしょう。

明治維新は、日本を近代国家として再出発させました。しかし、その後、日本は戦争と敗戦という大きな試練を経験することになります。

結果として、日本社会は、物質的には豊かになりましたが、精神的には多くの問題を抱えるようにもなりました。その中で、草垣女史は人間の内面の建て替えを説かれました。

この視点から見ると、松陰が志を説いた時代は、「国家の覚醒の時代」であり、草垣女史の教えが示された現代は、「人間の覚醒の時代」ということができます。

四. 明治時代と「あたらしい道」

（明治の頃に一度戻るんですよとおっしゃられた松木草垣女史。その明治時代は文字通り、明治天皇によって作られた時代でした）

①日本史の大転換期

――日本の転換期と天意の能き――

日本の近代は、しばしば「明治維新」によって始まったと説明されます。

しかし、国の表面的な改革の背後には、国の在り方を大きく転換させる深い精神的流れが存在します。その中心に立たれたのが、明治天皇であります。

明治天皇は、単なる近代国家の君主ではなく、日本という国の「祭祀（神や先祖をまつること）」と「国家」の両方を担われた、特別な存在でした。

一方、昭和の時代に現れた松木草垣女史は、天からの能きを受け、「あたらしい道」を示された方です。

このお二方の存在を見てみると、日本の近代から現代にかけての流れに、一つの大きな潮流が見えてきます。

それは、日本という国の建て替えと立て直しという、天意の能きです。

②明治天皇の役割

――日本の近代化と国の存続――

明治維新は、単なる政権交代ではありませんでした。当時、日本は西洋列強の圧力の中で、国家としての存続そのものが危機にさらされていたからです。

この危機の中で、明治天皇は、

・五箇条の御誓文
・廃藩置県
・近代国家制度の整備
・教育制度の確立

などを通じて、日本を近代国家へと導かれました。しかし、明治天皇の役割は、政治だ

けではありません。

明治天皇は生涯を通して、

・神道祭祀
・和歌
・国民との精神的つながり

を大切にされました。

つまり、近代国家を造りながら、「日本の精神を守る」という、二つの役割を同時に果たされたのです。

③松木草垣女史の役割

――日本の精神的な建て直し――

明治維新によって、日本は国家としては強くなりました。しかし、近代化の過程で、

・人の心
・家族の在り方
・日本人の精神

は大きく揺らぎ始めました。

戦争と敗戦を経て、日本は大きく変わりました。そのような時代の中で現れたのが、草垣女史でした。

昭和二十七年、草垣女史が言われたのは、「国が危ない」でした。これは単なる国の政治的危機のことではありません。日本の精神そのものが危ない、という意味であったと考えられます。

④明治天皇と「あたらしい道」の接点

明治天皇と「あたらしい道」は、直接の歴史的接点はありません。

しかし、日本の大きな流れの中で見ると、次のような関係が浮かび上がります。

第一段階

明治天皇→日本の国家の立て直し

第二段階
　昭和の戦争と敗戦→日本の精神的危機
第三段階
　草垣女史→日本人の内面の建て直し
つまり、国の形を整えられた明治天皇、精神的な方向性を示されたのが草垣女史です。

⑤「元の日本に還る」という視点
草垣女史の教えの中には、
「元の日本に還る」
という大きな流れがあります。
これは、過去へ戻るという意味ではありません。
日本が本来持っている、徳・和・自然への感謝・人を思う心を、現代に取り戻すという意味です。

⑥これからの日本
現在、日本は再び大きな転換期にあります。
世界は、戦争・経済不安・価値観の混乱の中にあります。
その中で、日本が果たすべきは、経済大国としての役割ではなく、精神文明国としての役割であると考えられます。日本は〝根の国〟であるとの草垣女史の教えは、そのことも示唆していると言えます。

＊＊＊＊＊＊

今の私たち日本人は、その二つの流れの中に生きているとも言えます。
「あたらしい道」が示しているものは、単なる宗教でも、思想でもありません。
それは、日本という国の未来につながる「道」なのです。

五．日本文明の流れ

――明治時代↓昭和の敗戦↓
敗戦後の時代――

日本の近代史を、文明の流れとして見ると、三つの大きな段階があるように見えます。繰り返しになりますが、第一の段階は、明治時代。明治維新によって、日本は近代国家として再出発しました。

明治天皇は、その中心に立たれ、日本を近代国家としてまとめ上げられました。

この時代のテーマは、「国家の再建」でした。

第二の段階は、昭和時代です。

日本は戦争と敗戦という大きな試練を経験しました。昭和天皇は、この激動の時代の中で、国民とともに苦難を分かち合い、戦後日本の安定を支えられました。

この時代のテーマは、国家の試練でした。

第三の段階として考えられるのが、戦後の精神的復興と草垣女史の教えの時代です。

戦後、日本は経済的に豊かになりましたが、精神的には多くの混乱を抱えるようにもなったのです。

・家族の崩壊
・人間関係の希薄化
・価値観の混乱

などが社会問題となりました。

そのような時代の中で、草垣女史は、人それぞれの〝本当の自分〟とは何であるかを明らかにされ、日本の理（ことわり）を呼び起こす「あたらしい道」を示されました。

これはもちろん、政治運動ではありません。宗教活動でもありません。人間の精神と生き方を整える道です。

草垣女史は、世の中の変化は、人間の力によ

るものではなく、天の能きによって進む、と説かれました。

日本文明は、国家の形を整える段階から、人間の魂を整える段階へ、と進んできています。

そして今、「あたらしい道」は、近代化という名の西洋中心の流れの中で、日本人の本来性を覚醒させ、その魂を再び建て直す道として現れたと言えます。

それは、例えば、

・朝ご飯をいただこう。
・童心を呼び起こそう。
・親同志がいい話をしよう。
・本当の日本のよいところをもう一ぺん思い起こそう。
・昔の日本のよいところを思い出そう。

など、身近で簡単なところから始まります。

これらの積み重ねが、元の日本に還り、魂を立て直す道程となるのです。



明治天皇
（ウィキペディア　明治天皇肖像御写真
（神奈川県立歴史博物館蔵））

道友録

「喜んで何なりとさしてもらいます」

大阪　今村　博



（平成九年一月の月刊誌二六四号より再編集しています）

一．おいたち

今村　私は昭和二十二年に、東大阪市で生まれ、小学三年の時、同じ市内の長瀬町に移りました。

戦後の混乱期で、両親は苦労したようでしたが、私はどちらかというと、何も知らないボンボン育ちでした。

大学二年の時、父の経営する電気会社が倒産し、自宅を処分しましたが、倒産した会社の一部を改築して住むことができる程度で、学校も続けられておりました。

そんな私が、長男であることを自覚させられたのは、十年後、父がガンで六十五歳の生涯を閉じたときのことでした。

私は三十歳、二人の子供がおりました。父が勤め先の役所を辞めて、独立して始めた損害保険の代理店と金融会社を継いだのです。

――お父さんは、色々とお仕事がお出来になったんですね。

今村　父は新潟から出てきて苦学しながら、税務署に入りました。また東大阪の商業協同組合では、理事長をしていました。

倒産した会社も、融資の関係で手に入れたもので、私の代になるのを待って、父の共同経営者がやってくるのです。

そして、当然のことですが、「工場の家賃は支払えない」「あなた方の住んでいる家屋は地代をもらう」「何年か後には出て行ってほしい」となったのです。まもなく、母と弟は別のところに引っ越しました。

そんなことが、かえって、私の発奮材料になったのか、継いだ時には、年商二千四百万しかなかった個人代理店が、五年後には、年商三億円の法人代理店に成長したのです。

私は三重県の名張に住宅を新築して、母にも入ってもらいました。

二．道にご縁を戴く

――あたらしい道のご縁は、昭和六十一年となっていますね。新築されて三年と言えば、人生の全盛期じゃないですか。どのような心境でこの道に来られたのですか？

今村　いや、「人生」を考えるようになったのは、学生時代の頃からなんです。義父がG教の信者でして、幹部の中村勇氏が、しょっちゅう家に来てました。実は、私の次弟がこの中村勇氏の娘さんと結婚し、養子になっているようなわけです。

私が大学柔道部のキャプテンをしていることがわかると、早速、

「うちの柔道部に教えに来てほしい」

と、中村勇氏から声がかかって、G教に引っ張り込まれました。その時、バトン部にいたのが、実は今の家内なんです。

ご存じの方もあると思いますが、G教の教祖は、予言通り四十八歳で亡くなりましたね。その後、何万もの信者たちが、分裂し派閥を作って大混乱になりました。私はどの派閥も信じられず、やめてしまいました。

教団の総務部長だった中村勇氏は、信者の落ち着き先を求めて、ほうぼうの宗教を行脚しました。ところが、その行為が裏切りと見間違われて、教団にいられなくなってしまいました。

義父は、その頃に『あたらしい道』を知って、「これこそ、本物だ」と思い、道友になったのです。そのとき、数人のG教信者が、一緒にこの道につながったと思います。そして、中村勇氏の養子になった次弟がこの道につながり、私の紹介者となったわけです。

三．ご面接（昭和六十一年三月十四日）

今村　この道に来ることになり、ご面接を頂戴した時、おやかたさま（松木草垣女史）からは、分からないなりにも、神秘そのものを感じました。だから、ご縁を戴いてからも、ここへ来ることが怖かったですね。

――ご面接ではどんなことを、仰いましたか？

今村　お金と神さんのことを言われました。

「あなたね　お金のことを気にする人でしょう　それは　もっともでしょうけれど　この世の中に　お金よりも徳が有難いんですよ　徳の人になるんですよって」

「この道のお方は　みんな一人ひとりが　徳を戴いたらね　お金なんか　へのへですよって　気にすることないんですよ　よく覚えておいて下さい」

「も一つね　今　ご自分のおムネでね『ほうぼうの神様屋さんは　お金をどさっと持っていく所と聞いている』って　云ってますよ　ここは　そんなこと言いませんよ　そんなの自由ですよ　気にすることありませんから　どうぞ……」

今村　「お金よりも徳が有難いんですよ」

と言われて、「なるほど立派なことだ」と分かるんですが、なにしろ、一日中お金ばかりを追っている仕事ですから、これを失ったら、生きる術（すべ）がないと思うわけです。その執着が、本当はこの場を怖いと思わせるんでしょうね。

四．お言葉

今村　そんなある日、発言をしたら、おやかたさまからお返しがありました。

「今のあなたは　面倒くさくて　どうしようもないんでしょう　でも　ここまで来たらよかったなあと　思っていらっしゃるのね」

「お前さん　その程度では　どうも　この道には無理でしょうね　仕方なしでね　あんまり嬉しくないんでしょ」

「それなら　必要ないって　天上から言っています　みたまさんが　つらいく ですよ　ですから　ちょっと　無理じゃありませんか　今晩よく練（ね）ってごらんなさいませ」

今村　それからしばらくは、お仕込み（お言葉を戴く）でも、およそ褒められたものはありません。おやかたさまの歯がゆさが伝わってきて、いつも身を硬くしておりました。

五．ご縁を戴いたあとの出来事

今村　翌々年の昭和六十三年の七月十二日には、突然、父の名前を訊かれたあと、このよ

うに戴きました。

「お父さんは　天上から　この道を　抱いてくれていますね　あなたはね　これから毎晩々々　お父さんになりきって　あたらしい道を喜ぶんですよ」

今村　実は、この頃、私はよからぬことに手を染めていました。株が昂じて、先物商品取引にのめり込んでいたのです。

　アナを空けると、「ちょっと前借」と思って、自分の会社の金を抜いて補填する。一、二回なら、何食わぬ顔ですみますが、連続してくると、その金繰りだけで神経をすり減らしてしまいます。

　このようなときに、天は、どうして父を動かされたのか？　もちろん、我々の憶測が許されることではなく、また、まったく関係ないことかもしれません。

　しかし、その後、地べたを這うような生き方をした私が、このお言葉によって、どれほど勇気づけられたかは、計り知れません。

　そんなことは知り抜いていながら、ニッチもサッチもいかなくなった私は、それを親会社に告白しました。家屋敷、それに別荘地を担保にすれば、何とかしてもらえると思ったのです。

　苦労知らずの甘ちゃんもいいところです。親会社に無理が通ったというのは、あちらにメリットがあった間だけなんですね。日を待たずして、専門の部署に呼び出されて、処分を言い渡されました。担当者は、大蔵省からの通告文を持っています。

「損害金は、今村個人が全額保証する。会社は存続させるが、今村は完全に無関係」ということでした。

平成元年のことですが、好景気の最中であったのが、せめてもの救いでした。それでも、一億円を超えていましたから、私は丸裸になり、叔父から借金もして、何とか納めました。

その間、私が車で外へ出ようとしたら、きっと、母親か家内が横に乗りました。相当深刻な顔をしていたんだと思います。父のことで鍛えられていたのか、母親が一番しっかりしていて、

「死んだらしまいやで。生きとったら何とかなるもんや」

と、言ってくれました。

六．給食業で再起

今村　好景気だといっても、この種の物件は買いたたかれて、半値以下になるのが相場です。それを時価以上で、しかも現金で買ってくれた人があったのです。

「村上給食」という、年商四十億の会社でしたが、数年前、自動車保険で難儀されていたことがありました。前年、事故が多かったので、どこの保険会社からも敬遠されて、百台近い配達車に保険がかけられなかったのです。

そのとき、私が親会社に無理を言って、保険の契約を成立してもらうことができたのです。「あのとき、お世話になったから」ということだったんですね。

その保険のときも、この度の家のことも、間に入ってくれたのが「笹山食品」さんです。彼とは、G教以来の友達でした。そうして、結局は、私の再起も笹山食品でお世話になったんです。

朝は、午前三時から午後五時まで働いて

八五〇〇円。もちろん休日も出勤で、三年間お世話になりました。その間に、調理師の資格を取ったんです。時間は違いましたが、家内も働かせてもらいました。

――失礼ですが、そんな収入で、よく頑張られましたね。おじさんへの返済もあったんでしょう？　そういえば、今村さんは「ますかけ」といって珍しい手相をお持ちだそうですね。何をやっても成功するという強運の持ち主ですね。（「ますかけ」は手のひらを真横に一直線に走る強運の手相）

今村　信じていただけるかどうか、別途収入があったからなんです。保険会社が好調なときに、お金を融通したのが二件、保証人の代払いをしていたのが一件ありました。

「オレのような落伍者に、今さら金を返す人間なんかあるもんか」と、思っていたのが、その頃になって、返って来始めたんです。代払いの方は、競売が落ちたと言って、銀行から二〇〇〇万円の返金がありました。

そしてさらに、現在の私の商売が軌道に乗った頃でしたが、返済していた月払いの方がピタリと止まったのです。それから、自己破産としたとの通知が、裁判所からありました。

「お金は、天が廻すと思え」とおっしゃるけど、正にその通りだな、と思わされた体験でした。

「笹山食品」には、三年いたと申しましたが、そのとき、社長が魚加工の会社を設立することになりまして、共同経営者として工場長をしていた私に「この際、独立しないか」と切り出したんです。笹山食品はご自分の息子さんに任せたいと思ったのでしょう。

私が開拓した得意先の一部を私が譲り受ける。その代わり、おかずは笹山食品から買うという条件で別れました。それが、現在の八尾の給食業の会社（弁当店）です。平成四年のことでした。

給食業の分譲の話がなくても、私はいつまでもお世話になるつもりはありませんでした。給食業というのは、案外、ただ働くだけでは、時間が過酷です。朝三時からの勤務を続けて、健康を害さなかったのが不思議なぐらいで、生活しているという感覚はなかったですね。

笹山食品の社長も、給食業から逃れようとして新会社を企画したんでしょうが、それは三ケ月で挫折しました。内部での話し合いがまとまらなかったんですね。一方では、スナックをやったりしたようでしたが、笹山食品も結局は廃業しました。

七．ついに握ったものを手放す

今村　そうこうするうちに、うちの長男は「辻調理師学校」を出て、私の会社に入ってきたんですが、「あと十年したら、給食なんて誰も食べないよ。現に、今の若い人は食べてないでしょう」と言います。「じゃ、どういう給食をやるのか」というのが、長男の課題ですね。

――息子さんが継ぐというのは最高ですね。今の規模はどれくらいですか？

今村　従業員十名で、毎日六百食出しています。九〇％が昼食ですね。売り上げは、前年比三割増しの連続で、今年は六千万円ぐらいでしょうか。

――お店のキャッチフレーズは何ですか？

今村　一口で言うと、「お米は最高。おかずは手作り風」ですかね。これを謳い文句でなく、実際にやれるかどうかです。

まず、お米ですが、これは道友の奈良の石井さんが吟味して納入してくれます。お任せできるからありがたいですね。おかずには好き嫌いもありますが、ごはんにはありません。だから、反応も早いし、給食屋の主役だと思っています。

おかずも即製品は使わずに、できるだけ手間をかけるようにしています。その分、安くもなるわけですから……。笹山食品から買っていたのも、一年でやめました

こんなことをしていると、やはり、営業には回れなくなりました。でも、納入先が紹介してくださるお客様で手一杯ですから、これでいいと思っています。自分でいいと思ったことを精一杯やって、あとは、成るに任すという心境です。

――やはり、朝は早いですか？

今村　今は二時半に入ります。しかも、ここしばらくは休みなしです。南港の「インテックス大阪」で見本市が始まったんです。売店で二二〇食、職員用に一〇〇食を納入します。

最初、警備保障会社へ納入したものをそこのガードマンが持っていかれた。それを見て、ビル職員から注文がありました。やがて、「売店でも、どうや」となって置いたところ、他の大型店のものより良く売れたんですね。これが、何よりも看板になりました。

容器を透明にして、お客様に見て買っていただく。通常は、「日替わり弁当」だけなのに、八種類にして選んでもらうとか、いろいろな工夫がありましたが、これも私だけが考えたのではなく、担当職員の要望に、素直に応じただけなんです。

――お店が繁盛して何よりです。そんなご

苦労があったとは知りませんでした。場には平均して戻っておられましたものね。

今村　月の理立も滞りがちのときもありましたが、準道友にはなっていませんでした。どん底で這いまわっていたときでも、なんとなく、「これでいいんだ」と思えるものがありました。おやかたさまへの思いだけは崩れなかったのだと思います。

お諭しいただいた「お金よりも　徳が有難いんですよ」ということが、給食屋をやって、初めて実感させてもらいました。

損得を考えずに身体を張って通ることで、それが好結果を生むことを知ったんです。「そんなの欲ですよ」と言われそうですが……。

八．振り返れば有難い毎日

今村　ご明断で「あなたは、お金のことを気にする」と言われましたが、思いの切り替えがすぐには出来ずにおったわけです。

その後、数々の通り越しを戴くうちに、徐々に自分の建替えをさせていただいたんだと思います。でも、最後に握ったものを手放すという段階にきて、今まで順調に軌道に乗っている弁当の仕事も含めて、すべて握っているものを手放すことは、中々できずにおりました。

そういう流れの中で、決断する日の来るのは、さほどの時間がかかりませんでした。

糖尿病の悪化が始まったのです。平成二十二年にとうとう入院したとき、下座の最中でしたが、足の指を切断する手術を受けることになったんです。

しかし、案の定、それだけでは済みませんでした。症状の悪化は進み、命の危険が出て

きたのです。翌年、とうとう膝の下から「足を切っていただく」ことになったのです。思えば、それはちょうど、弁当の仕事を完全に長男に譲る決心をしたときのことでした。

自分は完全に商売から身を退くことにしたのです。そして、あたらしい道の場の当番に入れてもらい、この場に身を置く日々が始まりました。

やっと、本当の意味でお金から離れることができました。

「何でもハイ」「喜んで何でもさしてもらいます」と言って毎日を過ごす有難い日々が、ようやく、巡ってきました。

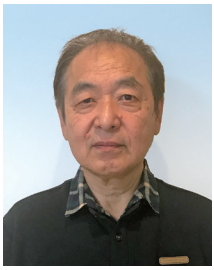
有難いことです。これからも、誠の誠で精一杯させていただきます。



おもい

閑院宮様とワンカップ

東京　佐藤吉司



――佐藤吉司氏朝礼あいさつより（令和七年八月三十日　いのりの日）――

昭和四十年に閑院宮様（かんいんのみや）がお繋がりになられました。

松の間では、閑院宮様が袖にお座りになられて、お行が行われました。

その翌朝、私は東京に帰宅しようと数名の道友と共に、新幹線のホームに行き、始発の列車で席を探しました。

閑院宮様は新幹線の一号車に乗られていた。私たちは三号車に乗りました。

ちょうどその時、道友の鈴木晴雄さんが、私たちの一行の中にいました。晴雄さんは当時から閑院宮様には面識があったので、一号車に行って、閑院宮様にお会いして、なんと、私たちのいる三号車にお連れしたのです。

私は緊張しながらお迎えしました。すると、ちょうど自分の前の席に、閑院宮様が座られることとなったのです。

緊張していたので、お話はどんなお話だったか覚えていませんが、座席を向かい合わせ

にして、皆さんで、和気あいあいと一時を共に過ごしながら、東京に向かったのです。

早速、ワンカップを開けて、乾きもので一杯始め、そのうち、ふと見ると、閑院宮様の口元に磯部巻きの海苔がくっついていたのが見えました。

私はそれを見て、ひと言申し上げようかどうしようか、と困惑しました。

何も言わないで黙っているのもどうかと思い、恐る恐る、

「あのう……口元に……磯部巻きの海苔が……」

と、申し上げかけると、

「あ、そうですか、どうもありがとう」

と、言われました。

その翌月のこと。私は羽曳野の場に帰参して、朝食をいただきに食堂に行こうとすると、バッタリ、廊下で閑院宮様にお会いしました。

「先日は、帰りの新幹線ではありがとうございました」

と、お礼を申し上げると、閑院宮様も、私のことを覚えていて下さり、にこやかに、

「ああ、あのときの……、その節はありがとうございました。楽しいひと時を過ごさせてもらいました」

と、お答え下さいました。

晴雄さんのお兄さんの鈴木祥夫さんから聞いたのですが、そもそも、閑院宮様は、江戸時代後期に即位された第一一九代、光格天皇以来、明治天皇、昭和天皇はじめ今上陛下に繋がられる、みなさん閑院宮家系統であられるとのこと、やはり、閑院宮様がこの道におつながりになられたことにも、何か本当に大

きな意味があったのだろうとも思わせられました。

そして、本当に良かったなと、改めて思いました。

おやかたさま（松木草垣女史）がお喜びになられたのも、ごもっともなことであり、また、大変貴重なことだったと、しみじみ思わせていただいたのでした。

道と皇室のご縁は、太くしっかりしたものがあるのだろうとも、改めて思わせられました。

（さわやかな朝礼あいさつに、沢山の拍手が起こりました）



閑院宮春仁王
（ウィキペディア 閑院宮春仁王
（近衛騎兵連隊附時代））

少年日本史①

上杉謙信

『少年日本史』制作委員会

一．泥中の蓮、不遇の少年時代

享禄三年（一五三〇年）、雪深い越後（現在の新潟県）の春日山城に、一人の赤子が産声を上げました。名は虎千代。のちの謙信です。

父・長尾為景は「越後の虎」と恐れられた猛将でしたが、末っ子の虎千代をなぜか疎みました。鋭すぎる眼光、何事にも妥協しない頑固さ。父は、自分を超えるかもしれない息子の才能に恐怖したのかもしれません。わずか七歳で、虎千代は城を追われるようにして林泉寺という寺に預けられたのです。

「なぜ、人は奪い合うのですか。なぜ、昨日の味方が今日は敵になるのですか」

多感な少年は、住職の天室光育に問いかけました。

「それは人の欲ゆえだ。だが虎千代、欲を捨て、誰かのために振るう剣は『義』となる。泥の中に咲きながら、決して泥に染まらぬ蓮の花のようになれ！」

この住職の教えが、のちの謙信の背骨となりました。彼は寺で兵法を学び、同時に深い信仰心を身につけていきました。

二．弱冠十四歳の初陣

越後の国は乱れていました。

病弱な兄・晴景（はるかげ）では家中をまとめきれず、各地で反乱が起きていたのです

「兄上に代わり、私が行く」

わずか十四歳。元服して景虎（かげとら）と名乗った少年は、初めて戦場に立ちました。誰もが「子供の遊びだ」と冷笑したが、景虎の指揮は神がかっていました。敵の動きを先読みし、疾風のごとき速さで本陣を突きました。

反乱軍は瞬く間に平定された。家臣たちは驚愕し、この若き天才に未来を託すことを決めた。十九歳で越後の守護代となった景虎は、バラバラだった国を一つにまとめ上げたのです。

三．宿命のライバル、武田信玄

景虎の名が天下に轟いたのは、自らの領土を広げるためではない。「助けてほしい」という他者の叫びに応えた時でした。

隣国・信濃（長野県）の豪族たちが、甲斐（山梨県）の「虎」・武田信玄（たけだしんげん）に攻められ、景虎のもとへ逃げ込んできたのです。

「利のために動くのではない。困っている者がいるなら、助けるのが人の道だ」

景虎は、自分の得にならない戦いに身を投じました。これが、十二年にわたる「川中島の戦い」の幕開けです。

永禄四年、秋。第四次川中島の戦い。

深い霧が立ち込める千曲川のほとり。

景虎は、全軍を「車懸（くるまがかり）の陣」という、波が打ち寄せるような連続攻撃で信玄の本陣へ叩きつけました。

「信玄、覚悟！」

自ら白頭巾を被り、名馬・放生月毛（ほうしょうつきげ）に跨った景虎が、突風のごとく信玄の前に現れました。

座ったまま軍扇で防ぐ信玄に、景虎の鋭い剣が三度振り下ろされます。

龍と虎が正面からぶつかり合ったこの一瞬は、戦国史上最も素晴らしい名場面として今に伝わっています。

結局、二人の天才は最後まで決着がつくことはありませんでした。互いの強さを認め合い、尊敬し合うという、友情のようなものがそこには芽生えていました。

四、義の極致、敵に塩を送る

戦いが続く中、甲斐の国の信玄に、最大の危機が訪れます。

海を持たない武田領に対し、今川氏と北条氏が「塩」の販売を禁止したのです。

「塩がなければ、民は死ぬ。家畜も死ぬ。武田はこれで終わりだ」

家臣たちは、

「今こそ信玄を叩く絶好のチャンスです！」

と、景虎（この頃には上杉謙信（うえすぎけんしん）と名を改めていた）に詰め寄りました。

しかし、謙信の答えは意外なものでした。

「私は弓矢と剣で戦うのであって、米や塩で戦うのではない。卑怯な真似はするな」

謙信は自国の商人に命じ、適正な価格で武田の領民へ塩を送り届けさせました。

「信玄、お主が死ぬときは、私の剣でとどめを刺してやる。空腹で死なせるような情けない真似はさせぬ」

現代でも使われる「敵に塩を送る」という

言葉。それは、勝つことよりも「正しくあること」を選んだ謙信の誇りを証明するものでした。

五. 一睡の夢、軍神の昇天

謙信の前に最後に立ちはだかったのは、天下布武を掲げる織田信長（おだのぶなが）でした。

圧倒的な火力と近代的な戦術で天下を飲み込もうとする信長。謙信は「義なき者が天下を治めることは許さぬ」と立ち上がる。手取川の戦いにおいて、謙信は信長軍を完膚なきまでに打ち破りました。

しかし、運命の時計は突然、止まります。

天正六年（一五七八年）。春日山城。

四十九歳になった謙信は、さらなる遠征の準備中に倒れました。

一期の栄華　一杯の酒
四十九年　一睡の夢

それが彼の辞世の句でした。

生涯、妻を娶らず、子供も持ちませんでした。夜は毘沙門堂に籠り、神と対話し、お酒と梅干しを愛し、戦場では誰よりも速く先頭を駆けました。

彼が亡くなったという知らせが甲斐に届いたとき、宿敵だった武田信玄の息子・勝頼は、「これほど廉直（れんちょく）（清らか）な大名はもう現れまい」と三日間も泣き続けたといいます。

六. 謙信が遺したもの

謙信の人生は、一見すると「損」ばかりに見えるかもしれません。自分の領土を広げることよりも、他人のために戦い続けたからで

す。

しかし、彼が貫いた「義」の心は、五百年経った今も、日本人の心に深く刻まれています。

「勝つこと」よりも「どう生きるか」。

皆さんが、これから困難にぶつかったとき。この雪国の龍が掲げた「毘」の一文字を思い出してみてください。自分の中に揺るぎない気持ちを持つ強さを、謙信は今も教えてくれています。

〔豆知識〕

なぜ毘沙門天を信じたのか？

上杉謙信がなぜ、数ある神仏の中でも特に、「毘沙門天（びしゃもんてん）」を深く信仰したのでしょうか。

毘沙門天は、仏教を守る「四天王」の中でも最強とされる、北方を守る武神です。

謙信が生まれた越後（新潟県）は、まさに日本の「北方」に位置します。自分の国を守る神として、これほどふさわしい存在はいませんでした。

また、毘沙門天は「悪を懲らしめ、正しい人を守る」神様です。

幼い頃からお寺で「正義」を学んだ謙信にとって、自分のためではなく、平和のために戦う毘沙門天の姿は、まさに自分がなりたい「理想の武将像」そのものだったのです。

この物語は、平泉澄著「少年日本史」（皇學館大学出版）、「物語日本史」（講談社学術文庫）を元に書かれています。

日めくりに寄せて

鼻血が……止まらず

旭川　河合良明



きたないものが　みえるうちは
己が　まだ〳〵　同類であると
おさとりなさい
（『松籟』　20日）

朝、鼻をかむと左の鼻から軽い出血、
日増しに鼻水と出血多くなり、
右の鼻からも出血。
血液をサラサラにする
薬の副作用でないかと
夕食後の薬を止める。
翌日は鼻血、鼻水なし。
名寄市立病院の担当医師に連絡すると、
「大事な薬だから服用して様子を見なさい」
夕食後服用すると、翌朝再び鼻血。
再度医師に連絡。
「士別市立病院に循環器の医師が
行っているので診察を受けなさい」
医師に症状を訴えると、
「脳梗塞を予防する薬だから
飲まないと駄目です。

その位の鼻血で死ぬことは有りません」
「脳出血の危険はないのですか?」
「絶対にありません」
「鼻水が酷いんです」
「ティッシュペーパーで鼻をつっぺしなさい」

「以前にも鼻血で
別の血液をサラサラにする薬を
止めたら鼻血は治りました」
「耳鼻科に行ったのですか?」
「行きましたが　治りませんでした」
「薬の名前は?」
「覚えていません」
「薬の名前は?」
と、目の前のパソコンに
私の薬歴が表示されているのに
調べようともせず　繰り返しく問われる。
患者の痛み、辛さ、不安感等を
一切聞き入れず
自分の意見だけを強引に押し付ける。
夜、医師の態度を
何と受け取るかと自問自答。

「天の親様、おやかた様、
患者の苦しみに添うことなく、
自分の意見を強引に押し付ける
医師に相変わりまして
私の前生、前々生、前々々生と合わせて
天に深くお詫び申し上げます。
前の世で　我の強かった私を
御見せ戴き誠に有難うございます。
前の世で我の強かった私を
深くお詫び致します。

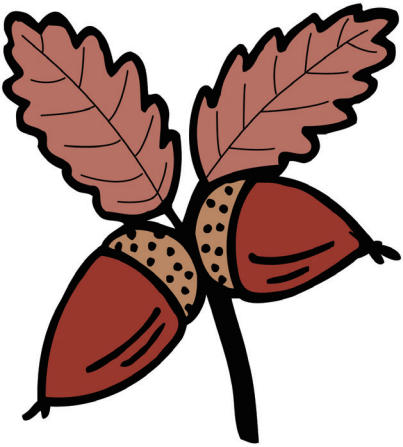
医師が私の事（脳梗塞）を
心配して下さったことを戴きます。
有難うございます。

これで私の根のしこりを一つ
因縁納消（いんねんなっしょう）
させて頂き、誠に有難うございます」

薬を再び服用、されど鼻血、鼻水無し。

＊鼻血で前の世の至らなさを知らされる。

ものごとに偶然はない
全て必然である
何事も
我に見せられたるところの
天意とさとれば　まんまるです
（『やまとの言葉』31日）





油絵　『水差しと果物』（愛知高橋佳孝さん作）

（絵の先生との会話）
先生「リンゴは面で捉えてください」
私「はぁ面ですか（写実の絵やリンゴは丸いもんやし……）」
先生「果物でフルーツスタンドの奥が見えないけど、奥の部分も、あるように描いてください」
私「はぁ、そうですか（どうせ見えへんし見えるとこだけ描けば……）」
先生「そのリンゴをナイフで切れば果汁があふれて出てきますか？そのガラスの水差しやグラスは叩くと高い音がしますか？」
私「はぁ（◎△＄♪×￥〇＆％＃？！）」

※完成に３か月かかりました

季刊誌「あたらしい道」のご購読は

お申込みは、各支部毎にまとめて、左記にご連絡下さい。

（年４回、６月、９月、12月、３月の各月８日に発行。各発行月の前月15日までにお願い致します）

申込先

あたらしい道本部

電話番号　０７２９（５６）７９７１

ＦＡＸ　０７２９（５７）５１００

季刊誌「あたらしい道」　令和８年秋号

令和８年９月８日発行（第548号）

発行責任者　中井　健

編集責任者　柳田　泰

発行所　一般財団法人　あたらしい道
大阪府羽曳野市はびきの3-3-18
〒583-0872　TEL：072（956）7971

印刷所　キクイ印刷工芸社
大阪府羽曳野市古市6-12-9
〒583-0852　TEL：072（956）6881

季刊誌「あたらしい道」
令和八年秋号　第548号（2026年）
発行／一般財団法人 あたらしい道